

# 慎太郎の手拭い

2016.01.17

久家 隆男

## 山を想えば人恋し、人を想えば山恋し

百瀬 慎太郎は近代登山の先駆者であり、長野県の大町にあった旅館・對山館の主人であった。大正から昭和初期にかけて多くの登山家や文人がこの宿を足場にして北アルプスに登った。例えば登山家としてはウエストン、冠松次郎、槇有恒達がいる、文人としては大仏次郎、斉藤茂吉、深田久弥達がいた。百瀬は若山牧水門に入り、短歌や絵を遺した文化人でもあった。また、日本初の登山案内人組合を結成したり、大沢小屋や針ノ木小屋を建てたりした。これらの功績により百瀬は今も多くの人に慕われている。

私は大町山岳博物館に先日立ち寄ったとき、百瀬 慎太郎が遺した名句『山を想えば・・・』が大きく記された手拭いが展示されているのに気付いた。その手拭いを見ているうちに無性に欲しくなった。博物館に展示されているものは当然のことながら一品ものばかりだが、手拭いならば一度に多数枚を作るのだから手に入るかもしれないと考え、博物館の係員に聞いてみた。係員によれば「針ノ木雪溪で百瀬を偲ぶ慎太郎祭を毎年やっていて、10年に一度の割で手拭いを作り参加者に配布している。あの手拭いは7～8年前に作ったものだと思う。」とのこと。それならば次の10年はいつになるかと聞くと、「来年か再来年だと思うがはっきりしたことは分からない。大町観光協会ならば分かるかもしれない。」と言われた。

そこで、私は大町観光協会に行き、そこの女性に手拭いの話をした。すると、「あの手拭いは少しだが残っているかもしれない。しかし、部外者にお分けするのは難しいと思う。」と予期せぬ言葉が返って来た。そこで、私は1枚でよいので何とか譲ってもらえない



かと強く頼むと、彼女は誰かと長い電話を始め、私はしばらく待たされた。やがて、彼女は熨斗紙で包まれた真新しい手拭いをどこからか持参し、譲ってくれた。この手拭いを入手するためには数年先に針ノ木雪溪まで行かなければならないかなと思っていたところ、望外な成り行きになり驚喜したのは言うまでもない。